

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成27年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

| | | | |
|--|---------------|-------------------|-------|
| 機関名 | 慶應義塾大学 | 整理番号 | A03 |
| プログラム名称 | 超成熟社会発展のサイエンス | | |
| プログラム責任者 | 長谷山 彰 | プログラム コーディネーター | 神成 文彦 |
| <p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内の本プログラムへの関心、理解が進みつつあり、これまで修士2年から参加する場合には、副専攻研究科の先取り履修の問題等により離脱する学生が発生していたが、昨年度はその数が減少した。 ・本プログラムの最大の特色である MMD（主専攻修士、副専攻修士、主専攻博士）教育システムは、計画通り順調に進められており、副専攻の受入れ研究科も拡大している。 ・出口戦略については、経団連や経済同友会の事務局に本プログラムの説明を行い、1期生の修了に向けた準備を開始している。 ・教育クラウドシステムの運用は定着しているように見える。支援期間終了後を見越した諸施設の財政負担軽減についても検討を始めている（例えば自前のサーバーから外部サーバー利用など）。 ・参加学生の意気は軒昂であり、参加の意義を強く意識し感謝している。 <p>○学生の獲得について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムへの応募者減少に対する対応策については、学部4年生のうちに内定を出す早期内定制の導入により、平成27年度は応募者数が前年度より増大した。 <p>○組織・マネジメント体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の学内理事を擁した本プログラム委員会の下で、教員、メンター等の指導・支援体制が順調に構築・運営されている。また、支援期間終了後の、学内化の軟着陸方法も検討されており、プログラムの意義がよく理解されていると感じられる。 <p>○出口戦略について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経団連の産学連携推進部会で、他大学とともに企業15社に対して説明会を持った。また機械学会年次大会で他大学と合同でワークショップを開催するなど、産業界への本プログラムの認知度を上げる努力がなされている。これらの活動はそれぞれの業界内部に認識が浸透するまでには時間がかかり、1回きりの活動にならないように、回数を重ねることと、対象団体や学会を増やすことが望ましい。 <p>○MMD教育システムについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1期生全員が2つ目の修士課程となる副専攻修士でも修士の学位を取得できたことは中間時点での大きな成果と言える。プログラムへの理解が一層進むきっかけになると期待される。 <p>○GPE演習（グループプロジェクト演習）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存グループによる政策提言に拘らず、自由に集合したグループで企業の具体的な課題について改良のための提言をまとめる試みもなされている。進化バージョンとして期待したい。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集定員に対して、なお6割の人数しか獲得できていない点に関して、更なる獲得努力を期待したい。 | | | |